



大谷教師塾 教員養成ナビゲーター

大谷大学
教職支援センター

第124号

2019. 10

教師を目指す

大谷大学 教職支援副センター長 林 正幸 准教授

後期に入りました。教師を目指している4年生においては、教育実習を終え、現場経験をもとに大学生活のまとめの研究に取り組んでいる頃だと思います。

昨年度、1年生の演習Ⅰで学生の皆さんに尋ねてみたことがありました。

「厳しい仕事であると言われる教師を目指すコースに入学してきたけれど、どうして教師になりたいと思っているのか？」

その時返ってきた主な答えが、「自分が小学校、中学校、高校の時に会った先生のようにになりたい。」「教師はやりがいのある仕事だ。子どもと一緒に成長できる。」「小学校は人間の最初の教育の場、基礎をつくる場で頑張りたい。」「人と人との関わりをもつ仕事だ。」などでした。たいへん頼もしく感じると共に、たいへん嬉しい気持ちになりました。

自分自身の経験を振り返ってみますと、本当に教師になりたいと思ったのは、4年生で教育実習に行ってからでした。今のように大学1年生や2年生で学校現場に行かせてもらう機会は少なかったです。大学時代の教育実習中に子どもたちとの話や子どもたちの行動から学ぶことが多くあったように覚えています。

教師という仕事は他の仕事とは大きく違う点があります。大学を卒業したての人も子どもたちや保護者の方にとっては「先生」なのです。若手もベテランも子どもたちの前では教師という同じ仕事をしなくてはなりません。「自分はベテランの先生方と同じように教師という仕事をやっていけるだろうか？」皆さんの中にはそのことに対して不安を感じている人もいるでしょう。だけど大丈夫です。子どもたちは文句なしに若い先生が好きなんです。

ベテランの先生は、さまざまな経験からいろいろな指導技術を身に付けていきます。それぞれの先生が「魅力」を持っていきます。その魅力が子どもを引き付けます。ベテランの先生にとってはこの魅力づくりが課題です。

一方、指導技術がまだ十分でない若手にとって、子どもに寄り添うことはもちろん大切ではありますが、本当の武器は「情熱」「熱さ」です。子どものためにどれだけ一生懸命になれるかです。

しかし、「情熱」や「熱さ」だけで突っ走るだけでは十分ではありません。子どもたちは若い先生が好きですが、若いというだけで保護者の方々は心配されます。

教師という仕事は、責任感と信頼感が必須です。教師は一人一人の子どもと本気で向き合い、一人一人の子どもの心に寄り添い、共感的に理解し、正しく導いてやらねばなりません。その結果として多くの子どもたちが、「自分のことをわかってくれる。叱ってくれる。正しいことを教えてくれる。だから先生が好き。」と思うのです。そしてそこに信頼関係が築かれていくのです。どうぞ自分の目指す道に向けて精一杯努力していきましょう。



《先生になるぞ》

《「考える力」を育てられる先生に》

文学科

和田 雄三

私は、生徒に「考える力」を育てる教師になる。最近の子どもたちは、「考える力」が十分に育っていないと感じている。暗記力は育っていても、見たこともない問題に対応することが苦手のように思う。

これからの社会に必要なのは、暗記力よりも思考力が重視されると考える。そのためには、国語教師として会話や記述の中に「思い」を意識した表現を大切にしていく。このことから、私は、思考力を育てられる教師になる。

《児童から信頼される先生に》

教育・心理学科

馬瀬 渉

中学生のころ、先生から「将来、何になりたい？」と聞かれたことがある。私は、その頃、「小学校三年の担任の先生のようにになりたい」と考えていた。周りからの信頼が厚く、子どもたちは、学校が楽しいと感じていたからだ。だから、私は、「人に影響を与えられる」とことと同時に「私が感じてきた楽しさを子どもたちに伝えたい」と思い「教師になります。」と、強い意志をもって答えた。今も、その気持ちは変わらない。

《「大好き」と言われる先生に》

教育・心理学科

櫻井 奈代子

私にとって先生とは、「安心できる大好きな人」である。私が小学生のころ、「給食が苦手」「友達作りが下手」等で「学校は楽しくない」と感じていた。歴代の担任の先生方からは、不安な私の気持ちに寄り添い優しく・厳しく指導してもらった。そのことが、私の「大嫌いな学校」が、「大好き」に変化していった。

私も故郷で教師になる夢をかなえ、子どもと関わり、「先生と会えて良かった」と感じてもらいたい。子どもたちから、『せんせい』と笑顔で呼んでもらえる教師になる。

《子どもが楽しいと思える学級に》

文学科

吉澤 彩弥

私は、小学校のころ友達関係で悩んだ。5・6年生の2年間、友達との距離が離れていき苦しい日々をおくった。母には心配をかけたくないため、誰にも相談せず必死に我慢した。毎日が、辛くて苦しかった。だから、その二年間は学校が楽しいと感じたことがなかった。

私は、教師として生徒一人一人が楽しく学校に通い、意欲的に学習できる教育環境をつくることを目指している。

《 学級を子どもが安心できる居場所に 》

教育・心理学科 今江 壮麿

私は、支援学校の教師を目指している。「人のために働きたい」と望んでいる。子ども一人一人との関りを大切にして、障がいによる日常生活の困難さを理解し支援していきたい。

学校ボランティアでの子どもとの関わりの中で得た「気づき」「学び」を教師として生かしたい。そして、何よりも子どもが笑顔で学校生活を送れるようにしたい。

《 「先生!!」と笑顔で呼ばれる先生に 》

教育・心理学科 上野 心

私は、人間が好きだ。人間には感情があり、意思があり、自由がある。人間は、瞬く間に成長し年を取る。この一瞬の人生の中で、何人の児童と関わり、影響を与えることができるか。私は、「教師」として児童の心の中に残れるようになりたい。児童と共に成長したい。感情も意思も自由も守れるようになりたい。以前、担任の先生が私にしてくれたように、私も児童の道標のような存在になりたい。人間が大好きな私は、先生になるぞ。

《 生徒から信頼される教師に 》

国際文化学科 松井 穂菜美

私は、生徒から信頼される教師になる。そのために、充実した楽しい授業を目指したい。生徒一人一人の得意と苦手を見つけ、生徒が意欲を持って学習できる授業を進める。英語の授業では、自分のスキルを上げ自信をもって授業にのぞみたい。友でありライバルである仲間と、「教師」に向けて最後まで努力することが大切だと考えている。英語教師を目指して、悔いの残らないように教師力の向上に向けて積極的に挑戦していく。



教員採用選考試験に向けて

教師を目指す3年生のみなさん、来年の教員採用選考試験（教採）まで9か月を切りました。計画を立てた学習、自分の課題に則した学習を進められていますか？この時期は、意欲と自分のビジョンを持って、その『ビジョンに向けての行動』が必要です。その道のりは、決して甘くはないのです。

サア！今から本気を出して、歩みだしましょう。仲間と刺激し合いながら、自分をしっかり見つめて、力をつけていってください。支援センターでは、セミナー、説明会、講習会等を計画しています。積極的な参加を待っています。相談も毎日アドバイザーが受け付けています。教採のこと、学校ボランティアのこと等、遠慮なく相談にきてください。

教採を目指した講習会

論作文短期セミナー（全5回 - 無料）12:20~12:50

下記の水曜日の昼休み、30分間を利用して「論作文」のセミナーを開きます。教採では、「人物重視」と言われており、「面接試験」と同じように人間性を判断する資料として多くの自治体で「論作文試験」が実施されています。文づくりの苦手な人、表現力をつけたい人、論作文対策をしっかりしたい人等、来年の教採試験に向けて参加してください。このセミナーは、書いて自分を表現する学習です。セミナーを出発点に、「課題」をもらい、「書く」 - 「添削」を重ねます。「書く」ことによって、自分を見つめられ、自分の考えがまとまったり、面接や討論にも役立ちます。教採に「論作文」の試験がない人も役に立つのがこのセミナーです。

- 第一回(11/6) 論作文について・講義（理論と学習の必要性、評価）
- 第二回(11/13) 演習（文の構成をする）
- 第三回(11/20) 演習（テーマに即して論の展開をする）
- 第四回(11/27) 演習（一文の長さ、主語・述語）
- 第五回(12/4) 演習（キーワードを入れ、説得力を持つ）

論作文対策は、一人ではできません。人に見せ添削を重ねることによって、自分の考えを人に解りやすく表現できるようになるのです。書いて上達するのです。
みなさんの積極的な参加を待っています。

